表1　予防的外側区域郭清および非郭清の比較報告

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 報告者 | 対象集団  対象者数 | 追跡期間 | 術式 | アウトカム | 結果 |
| Ito et al. [5] | cT1N0M0乳頭癌2631例 | 91ヶ月 | 予防的外側区域郭清あり1545例  予防的外側区域なし1093例 | 無再発率 | 有意差なし |
| Ito et al. [6] | 腫瘍径1.1-3.0cmかつ  cN0/N1a乳頭癌1243例(T4, M1症例は除く) | 48ヶ月 | 予防的外側区域郭清あり414例  予防的外側区域なし829例 | リンパ節無再発率 | 有意差なし |
| Ito et al. [7] | cN0/N1aM0乳頭癌10366例 | 1992-1996年の症例(Group 1) 222ヶ月　1997-2005年の症例(Group 2) 138ヶ月、2007-2014年の症例(Group 3) 58ヶ月(術式変更の過渡期であった2006年の症例は含まれず) | 外側区域についてはGroup 2, 3の腫瘍径1.1-4cmかつ75歳未満の症例で検討。  Group 2郭清あり1566例、なし577例  Group 3 郭清あり222例、なし3409例 | リンパ節無再発率、遠隔臓器無再発率 | Group 3のリンパ節無再発率はGroup 1よりも良好(p＝0.0222）。  Group 2および3の遠隔臓器無再発率はGroup 1より良好(p =0.0343および0.0025)。  Group 2およびGroup　3において予防的外側区域郭清はリンパ節無再発率を改善せず。  3.1-4 cmかつT4a症例のサブセットでは外側区域郭清を施行した方が、リンパ節無再発率が高い(p =0.0495)。 |